

1 調査名称：郡山市総合都市交通戦略策定調査

2 調査主体：郡山市

3 調査圏域：郡山都市圏

4 調査期間：平成21年度～平成22年度

5 調査概要：

本市の交通施策は、昭和63年度に策定された第1回郡山都市圏総合都市交通計画に基づき、都市活動を支える交通基盤整備が進められてきた。

その後、少子高齢化の進行、経済の長期低迷、環境問題の深刻化など社会経済情勢が変化する中で、低密度な市街地の拡大などの都市構造の変化やそれに伴う交通流動が大きく変化してきたため、平成18年度に郡山都市圏パーソントリップ調査を実施し、持続可能な都市交通体系の構築を掲げる新たな郡山都市圏総合都市交通計画が平成21年度に策定されたところである。

また、本市の唯一のバス事業者である福島交通㈱の会社更生法の適用など、公共交通を取り巻く環境が、重要な問題となってきた。

このことから、本市総合計画や郡山都市圏総合都市交通計画を踏まえ、社会実験等を行いながら、地域特性を捉えた地域別交通体系のあり方やその実現化方策の策定を行う。

なお、総合都市交通戦略の策定にあたっては、市民代表者や交通事業者等で構成する郡山市総合都市交通戦略協議会や地域懇談会の開催やパブリックコメントの実施など、透明性の高い総合都市交通戦略となるよう取り組む。

## I 調査概要

### 1 調査名：郡山市総合都市交通戦略策定調査

### 2 報告書目次

#### 1章 調査概要

(背景・目的、位置づけ、調査体制、調査工程)

#### 2章 郡山市の現状と課題

(郡山市の都市構造及び交通の特徴、交通手段別の役割)

#### 3章 郡山市が目指す都市交通の将来像と戦略

(上位・関連計画の概要、課題の整理、目指すべき都市交通の将来、目標)

#### 4章 目指すべき都市交通の将来に向けて

(交通手段別方針、地域別対応方針)

#### 5章 重点プロジェクト

(施策の整理、重点プロジェクト、地域別整備方針)

#### 6章 PI・PR活動の計画、実施

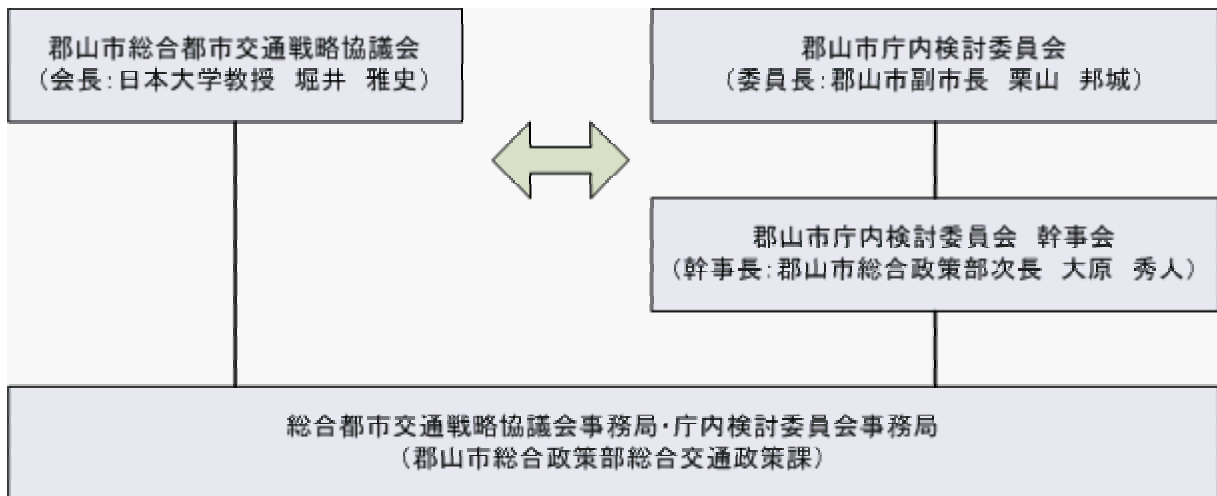
(PI活動の内容と手順、PR活動の計画、実施)

#### 7章 社会実験の実施

(まちなか循環バス、富田⇄西ノ内⇄安積バス)

(西田町・中田町・熱海町乗合いタクシー)

## 3 調査体制



## 4 協議会名簿等：

	所属	役職等	氏名
委員長	日本大学工学部土木工学科	教授	堀井 雅史
委員	自治会連合会	理事	影山 洋二
委員	老人クラブ連合会	事務局長	富澤 三好
委員	婦人団体協議会	事務局長	佐藤 ヒロノ
委員	市民代表 (一般公募)	—	渡辺 健治
委員	市民代表 (一般公募)	—	水野 博文
委員	郡山商工会議所	観光国際委員会委員長	高橋 良和
委員	郡山地区商工会広域協議会	会長	滝田 武
委員	東日本旅客鉄道(株)郡山駅	駅長	鈴木 辰雄
委員	(社)福島県バス協会	専務理事	菅崎 守雄
委員	福島交通(株)郡山支社	支社長	高野 純一
委員	郡山地区ハイヤータクシー協同組合	理事長	西條 善男
委員	私鉄福島交通労働組合	郡山支部長	国分 義春
委員	東北地方整備局郡山国道事務所	所長	鎌田 一幸
委員	福島県県中建設事務所	所長	沼田 典雄
委員	郡山警察署	署長	黒津 康司
委員	郡山北警察署	署長	菅藤 紀久夫
委員	東北運輸局福島運輸支局	首席輸送企画専門官	宮地 和久
委員	福島県県中地方振興局	県民環境部長	鈴木 芳明
委員	郡山市	副市長	栗山 邦城

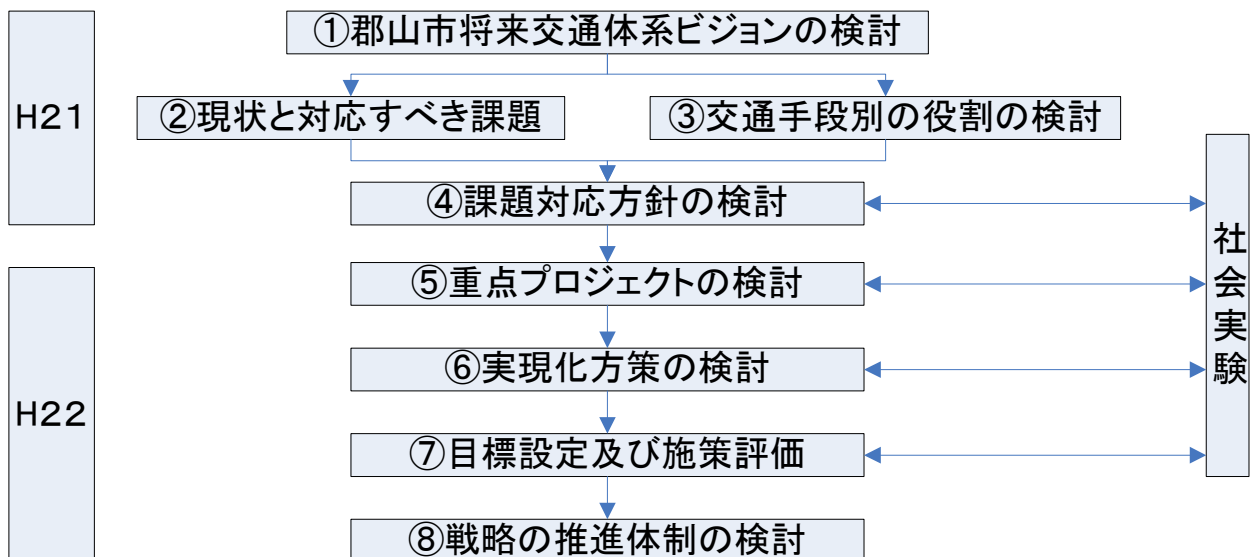
## II 調査成果

### 1 調査目的

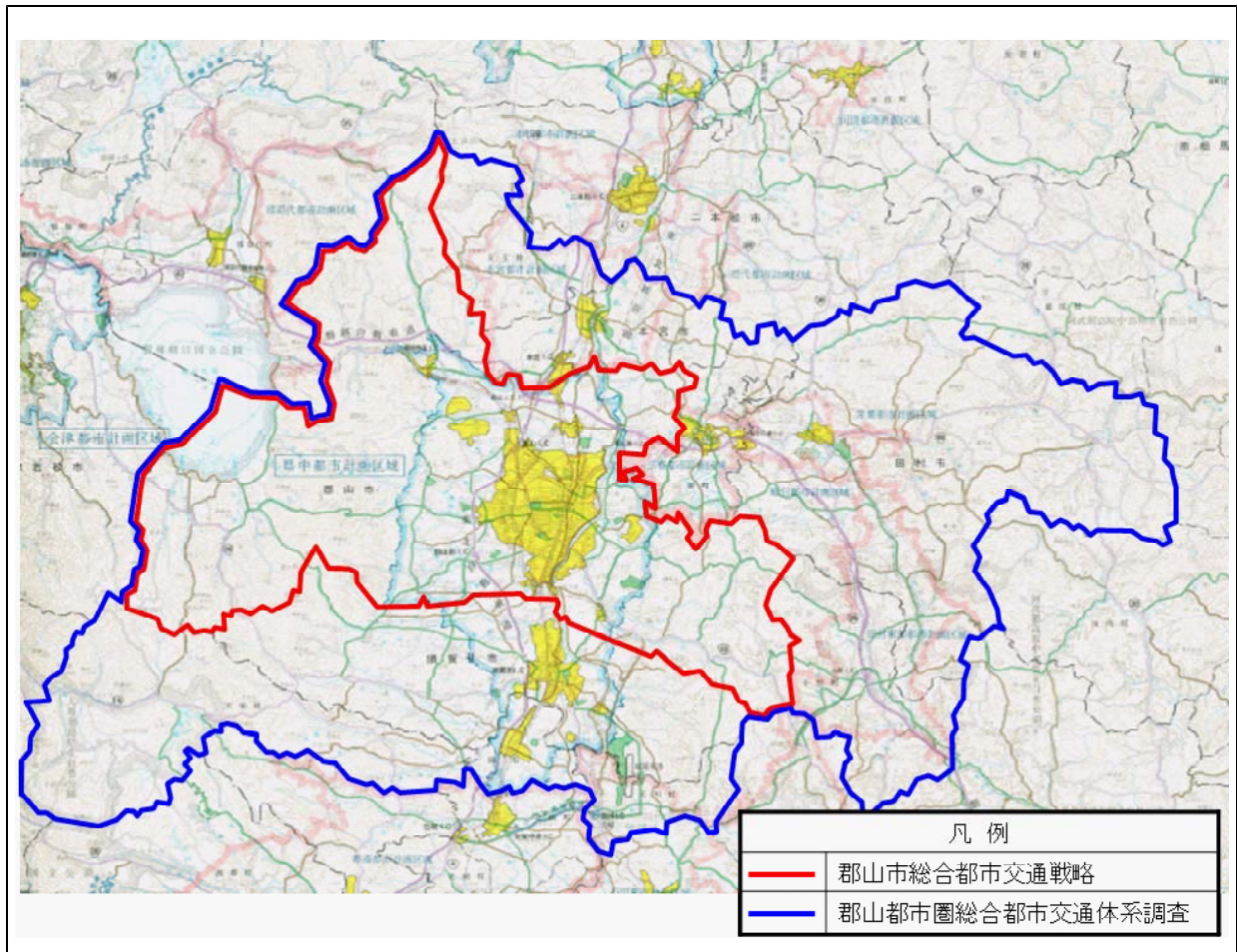
平成18年度に郡山都市圏パーソントリップ調査を基に策定される『郡山都市圏総合都市交通計画』は、郡山都市圏の総合的な交通体系を提言している。

『郡山市総合都市交通戦略』は、この計画や総合計画の実現のため、本市が重点的に進めるべきプロジェクトや地域別の課題対応方針を定め、短・中期的に取り組む施策を位置づけることを目的としている。

### 2 調査フロー



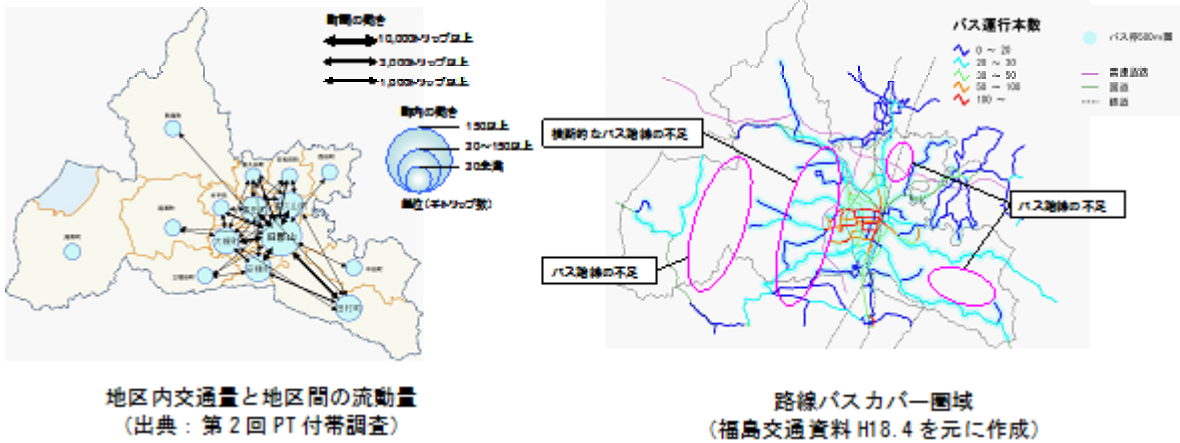
### 3 調査圏域図



## 4 調査成果

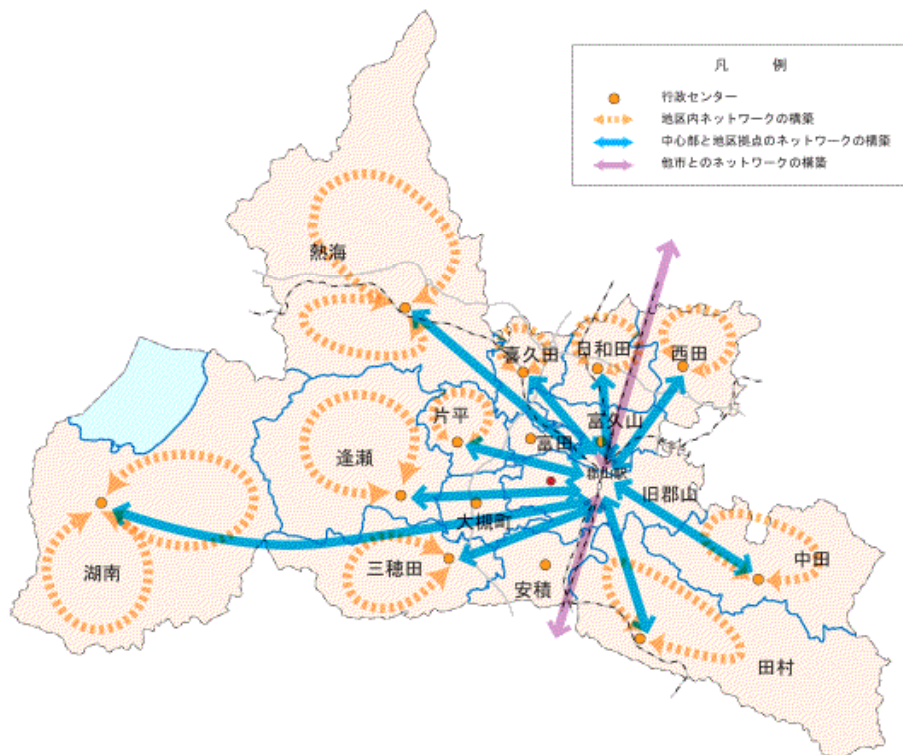
### (1) 郡山市の現状と課題

- ・ 公共施設や商業・業務機能が集積している旧郡山地区とのトリップが多い
- ・ バス路線網は、郡山駅を中心にした放射状となっており、利便性が低くなっている。また、田園地区において公共交通の利便性が低下しています。



### (2) 都市交通の将来像

圏域拠点と地域拠点を結ぶネットワークと、地域拠点地区では地区内ネットワークの構築を図る。また、地域拠点地区では、行政センターや駅を交通の起点として、地区内の住民の足を確保する。





### (3) 地域別対応方針

本市は、約757平方キロメートルの広大な面積を有しており、地域によって、課題やその対応方針は、異なってくる。

本年度は、地域の課題について、郡山都市圏パーソントリップ調査結果を活用し、課題の整理及び対応方針について、検討を行った。



今後は、地域懇談会や庁内検討委員会等を踏まえ、郡山市総合都市交通戦略協議会にて、方針を定めていく。

地区名	旧郡山地区
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郡山駅周辺およびさくら通り、国道49号、小野郡山線などの日常的な渋滞の解消</li> <li>・ 中心市街地の活性化、商業拠点としての魅力向上に向けた、誰もが安心して移動できる地区内移動の確保</li> <li>・ 鉄道やバスの利用環境は比較的充実しているが、他地区との連携における中心拠点として、より一層の充実</li> <li>・ 社会実験などで利用者からの期待が大きかった地域内南北方向および駅東側への公共交通による移動の確保</li> <li>・ 自転車利用が多く、社会実験なども実施してきた自転車利用の先進地区として、安全・安心に移動できる自転車・歩行者環境の充実</li> </ul>
対応方針	

地区名	富田地区
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道49号の日常的な渋滞の解消。</li> <li>・ 郡山駅一喜久田駅間が7.9kmと長く、その間に位置する富田地区は両駅から外れる圏域。旧郡山地区とのつながりが強いことから、新駅設置等の検討。</li> <li>・ 新駅設置に伴う、周辺道路の整備と乗り換えの利便性向上を目指した、交通結節点の強化検討。</li> <li>・ 他地区への移動は、一度郡山駅に行き他路線のバスに乗り換えて行かなければいけない。実験では利用者も多く、継続要望多かったことから、公共交通による南北方向の移動の確保。</li> </ul>
対応方針	
地区名	大槻地区
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧郡山地区に近接した居住地としての魅力を一層充実するため、地域周辺の渋滞の解消や市街地部以外の地域での公共交通手段の確保</li> <li>・ 自転車利用者が比較的多いことから、安全な自転車や歩行者の移動空間を確保</li> <li>・ 湖南地区や逢瀬地区と旧郡山地区を繋ぐ動線上にあり、ICの新設などにより、郡山市全体の広域交通の利便性の向上に貢献するとともに、周辺地区の住環境を保全</li> </ul>
対応方針	





地区名	逢瀬地区
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道駅がないことから、市中心部への公共交通の移動はバスのみであるため、バス路線の充実が求められる。</li> <li>・ 人口が少なく老年人口割合が高い地域であるため、今後、市中心部への公共交通の移動性の向上や自動車以外の地区内移動手段の確保から、バス路線の充実を図る。</li> </ul>
対応方針	 <p>The map of the Aiseki area shows a network of bus routes (solid blue lines) connecting various points. Key locations include the Aiseki River (逢瀬川), Aiseki Elementary School (逢瀬小), Aiseki Community Center (逢瀬コミュニティセンター), and Aiseki Administration Center (逢瀬行政センター). A legend in the bottom right corner defines symbols for bus routes, administrative centers, schools, and other facilities.</p>
地区名	片平地区
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道駅がないことから、市中心部への公共交通の移動がバスのみであるため、バス路線の充実が求められます。</li> <li>・ バスなど地域内交通の利便性向上</li> </ul>
対応方針	 <p>The map of the Katayama area shows bus routes (solid blue lines) and administrative centers (red dots). Key locations include the Katayama River (片平川), Katayama Elementary School (片平小), Katayama Administration Center (片平行政センター), and Katayama Community Center (片平コミュニティセンター). A legend in the bottom right corner defines symbols for bus routes, administrative centers, schools, and other facilities.</p>

対応方針



地区名 日和田地区

地域の課題

- ・ 既存の鉄道駅等の交通結節点の強化
- ・ 地域内交通の利便性向上

対応方針



対応方針

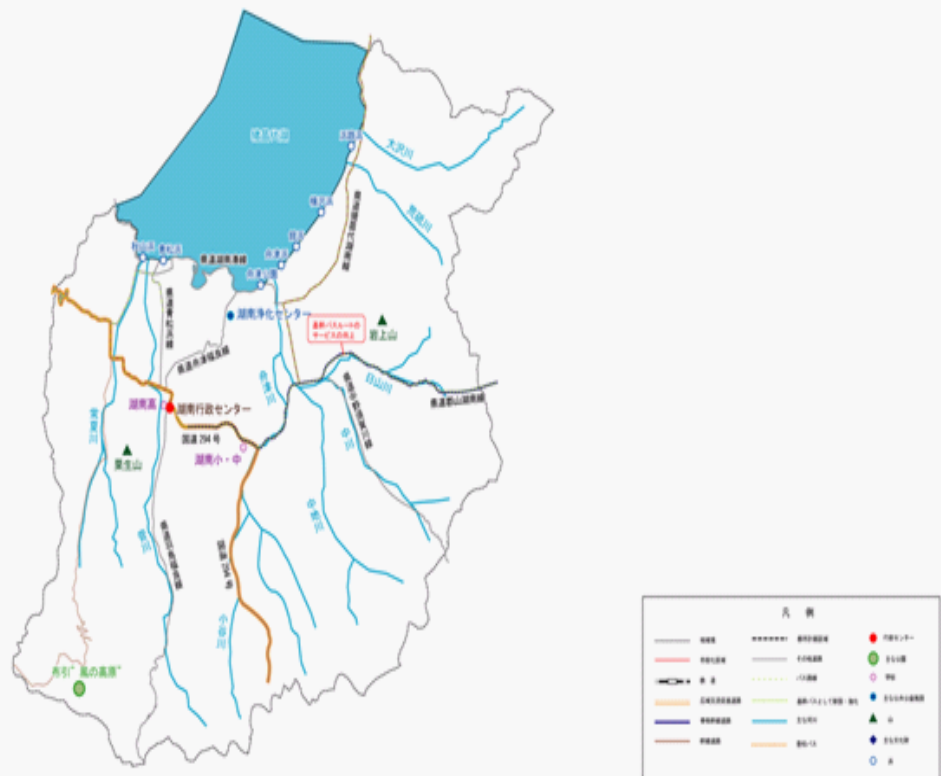


地区名 湖南地区

地域の課題

- ・ バス路線が廃止され、郡山駅までの公共交通がなく、市中心部へのバス路線を充実
- ・ 郡山市内で高齢化率の最も高い地域であり、高齢者の移動性を確保
- ・ 観光拠点を保持しているが、観光旅行者も車でのアクセスに頼らざるを得ない現状の改善。

対応方針









#### (4) 社会実験の実施

##### 1. 『まちなか循環バス』

###### a. 実施概要

実施期間：平成21年11月1日（日）～14日（土）計14日間

運行ルート：駅西口発～西口着の周回ルート（約7.0km）

運行本数：19便/日 料金：無料

###### b. 利用状況

利用者数：14日間で、のべ2,153人が利用しました。

##### 2. 『富田⇄西ノ内⇄安積』バス交通実験結果報告

###### a. 実施概要

実施期間：平成21年11月30日（月）～6日（日）計7日間

運行ルート：安積団地～富田行政センター間

運行本数：26便/日 料金：無料

###### b. 利用状況

利用者数：7日間で、のべ3,272人が利用しました。

##### 3. 西田町乗合タクシー実証実験結果報告

###### a. 実施概要

運行ルート及び実施期間

実施期間：平成21年12月16日（水）～平成22年1月29日（金）のうち各ルート5日間

運行ルート：①土棚・鬼生田線、②大田・木村・根木屋線、③丹伊田・高柴・三町目線

運行本数：各ルート4便/日 料金：無料

###### b. 利用状況

利用者数：各ルート5日間の計15日間で、延べ104人が利用しました。

##### 4. 中田町乗合タクシー実証実験結果報告

###### a. 実施概要

実施期間：平成22年3月8日（月）～21日（日）計14日間

運行ルート：①北コース（駒板⇄行政センター）、②南コース（野橋⇄行政センター）

運行本数：各ルート4便/日 料金：無料

###### b. 利用状況

利用者数：14日間で、延べ50人が利用しました。

##### 5. 熱海町乗合タクシー実証実験結果報告

###### a. 実施概要

実施期間：平成22年3月8日（月）～21日（日）計14日間

運行ルート：①石筵・高玉コース、②安子ヶ島・玉川コース

運行本数：①石筵・高玉コース6便/日、②安子ヶ島・玉川コース12便/日 料金：無料

###### b. 利用状況

利用者数：14日間で、延べ351人が利用しました。